

道の駅「摩周温泉」

- 所在地：北海道川上郡弟子屈町
- 路線名：一般国道241号



摩周湖

リアルタイムな情報を「道の駅」へ提供

・地域の旬な情報等を提供
・ニーズに適した観光を提案

「道の駅」利用者（観光客）

■地域観光のゲートウェイ機能

・観光インフォメーションデスクを設置

- コンシェルジュが**周辺地域を含めた観光情報を提供**
- ツアーデスクでは、**細かなニーズに対応した周辺地域での観光モデルルート**を提案

■シーニックバイウェイ北海道との連携

- ・平成23年度から「**シーニックバイウェイ北海道**」の**地域活動団体**と「道の駅」が**連携**して、**釧路・根室地域限定のスタンプラリー**を実施
- ・周遊観光機会を創出し、**地域間交流を促進**

農産物直売所の売上増加と出荷する生産者の拡大

道の駅「内子フレッシュパークからり」

○所在地：愛媛県内子町

○路線名：一般国道379号



農産物直売所



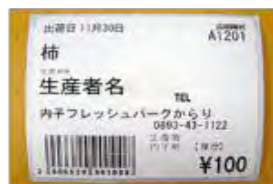
- 生産者履歴を開示し農産物直売所を中心に売上が拡大
安全安心な農産物提供システムの構築・町内での信頼関係の構築



農産物の履歴を開示

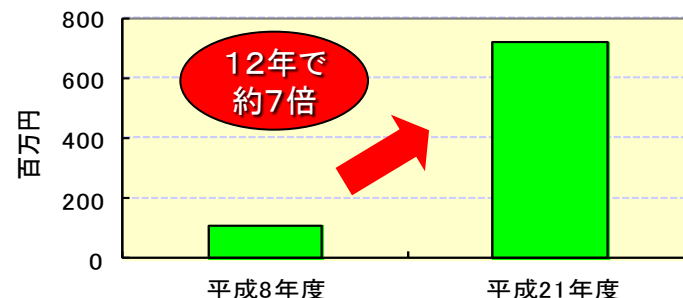


栽培履歴検索



栽培者の情報を
バーコード管理

「内子フレッシュパークからり」年間売上高推移



- 地域の農産物生産者が拡大



出荷会員

○道の駅に農産物等を出荷する生産者が
70数人→430人に拡大

○小規模、高齢、兼業など中山間地農業のハンディを克服、高次元農業を実現

地域コミュニティの拡大効果事例

道の駅「マオイの丘公園」

- 道央圏と道東を結ぶ国道274号沿いに立地(6,591台/日:H22)
- 主な施設:農産物直売所、レストラン、パークゴルフ場など
- 平成8年11月供用、利用者数年間約100万人

「生産者」と「消費者」が繋がる **地元農産物直売所**



⇒「生産者」が「消費者」
ニーズを直接把握



「消費者」が「生産者(農家)」へ来てもらう



宿泊農業体験
年間 約4000人



農家レストラン

⇒ **新たな農村振興や地域活性に貢献**

- ・約160戸の農家が旅館業許可を取得
- ・年間約4,200人の宿泊農業体験(主に修学旅行生受け入れ)
- ・年間約1,000人の日帰り農業体験
- ・町内で3箇所のファームレストラン営業

災害対策の拠点

- 「道の駅」が、自衛隊の活動拠点や住民の避難場所、水、食料、トイレを提供する貴重な防災拠点として機能。
 (防災拠点化のために自家発電設備を備える駅では、停電時にも24時間開所する等により機能)

自衛隊の復旧支援活動の拠点として機能する道の駅「津山」



東日本大震災における「道の駅」利用の具体例

道の駅名	所在地	路線名	対応の例
三本木	宮城県大崎市	4号	・自家発電により24時間開館し、おにぎり、菓子等を提供。情報館にて避難者を受け入れ。
津山	宮城県登米市	45号	・自衛隊やレスキュー隊の前進基地、支援隊員への炊き出しの実施。南三陸町のホテル客が避難。
ふくしま 東和	福島県二本松市	349号	・おにぎり等食料、トイレ、給水サービスを提供。避難住民1500人を受け入れ。
喜多の郷	福島県喜多方市	121号	・給水サービス、食事販売、日帰り温泉施設を被災住民に無料開放。
南相馬	福島県南相馬市	6号	・避難所として開放、災害応援の拠点として機能。
ひらた	福島県平田村	49号	・避難住民に無料で電源、水を提供。村内の病院や避難所に食材を供給。

- 東北地方太平洋沖地震の際に「道の駅」は、道路情報・被災情報等の発信拠点や復旧作業の拠点として活用されたことから、被災時の災害被災情報発信や復旧活動の拠点として災害用トイレや非常用電源等を備えた「道の駅」の整備の必要性は高い。

自衛隊の前線基地として利用



救援物資の中継場所として利用



臨時避難所及び道路情報提供して利用



避難所として利用



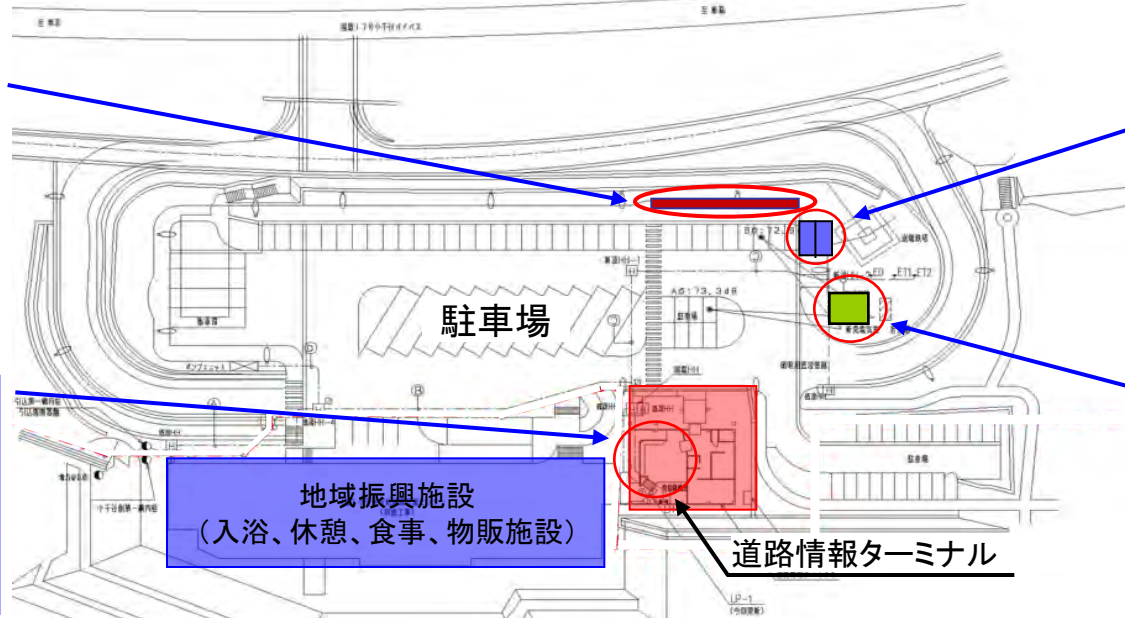
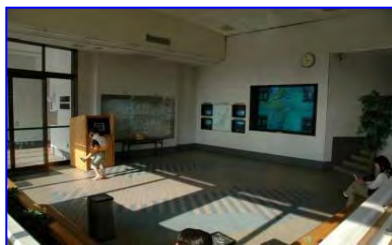
防災拠点機能の整備事例(道の駅「ちぢみの里おぢや」)

- 路線名:一般国道17号
- 所在地:新潟県小千谷市

○ 非常用常設トイレ



○ 情報提供装置



○ 防災備蓄倉庫



○ 非常用発電装置

